

【背景】成人健康女性の尿失禁の経験率は10～46%であるとされ、高齢期以前からの発症も多くみられている。そして、その約80%は腹圧性、切迫性および混合性尿失禁であると報告されており、それらの予防・改善方法として、骨盤底筋訓練や薬剤の使用、手術等が有効であるとされている。しかし、健康女性にとって尿失禁はQOLを著しく低下させる症状であると同時に、極めて個人的な症状であり、他者が発見し予防改善に向けて積極的に働きかけることは難しい。尿失禁に関する予防・改善行動をとるには、女性自らが必要性に気づき、行動を起こさなければならない。そのためには、女性が正確で適切な情報を入手することが必要となる。

【目的】本研究においては、女性の尿失禁に関する予防・改善行動を高めるためのヘルスコミュニケーションを考える一助とするために、女性が尿失禁に関する情報を得ている媒体、および媒体の選択とQOLとの関連を明らかにすることを目的とした。

【方法】ケアマネジメント関連研修に参加した保健福祉職の女性142名に自記式質問紙による調査を実施し、そのうち尿失禁の不安や経験を持つ者98名を分析対象とし、一元配置分散分析を実施した。本研究においては、尿失禁に関する調査に対し意識が高く、回答の信頼性が高い対象として、保健福祉職を選定した。尿失禁関連QOLの調査にはKing's Health Questionnaire (Kelleher, 1997) : KHQの日本語版(本間ら, 2004)を使用した。

【結果】対象者の平均年齢は49.96歳(29-64歳, SD=9.0)であり、情報探索媒体の状況は図1のとおりであった。尿失禁関連QOLと情報探索媒体の関連については、『生活への影響』、『仕

事・家事への制限』、『身体的活動への制限』、『社会的活動の制限』、『個人的な人間関係』、『心の問題』の領域において、制限の強さとインターネットによる情報探索利用状況に、有意な関連がみられた。また、今後利用したいとの回答のあった媒体については、『生活への影響』、『心の問題』において家族、『心の問題』においてインターネットとの有意な関連が認められた。

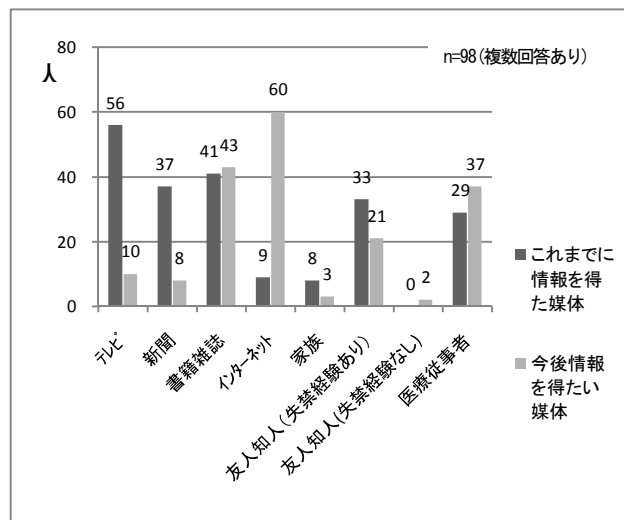


図1 尿失禁に関する情報探索媒体の状況

【考察】尿失禁関連QOLが複数領域において低下している者は、能動的な情報探索行動の媒体として、インターネットを活用していると考えられる。また、生活や心の問題については、身近な相談者である家族やプライバシーの守られるインターネットからの情報に期待していると考察される。

【結論】インターネットは尿失禁に関する情報提供の手段として有効である。女性の尿失禁の予防・改善行動を高めるためには、その情報の信頼性、妥当性を高める必要がある。

遠藤寛子, 東海大学健康科学部, 江東区北砂5-19-6-605, g.-endou@kir.biglobe.ne.jp